

# 令和4年産 美里地区の稲作情報 総括号

宮城県美里農業改良普及センター 総括号 令和4年12月22日発行

TEL:0229-32-3115 FAX:0229-32-2225

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



## 1. 気象経過

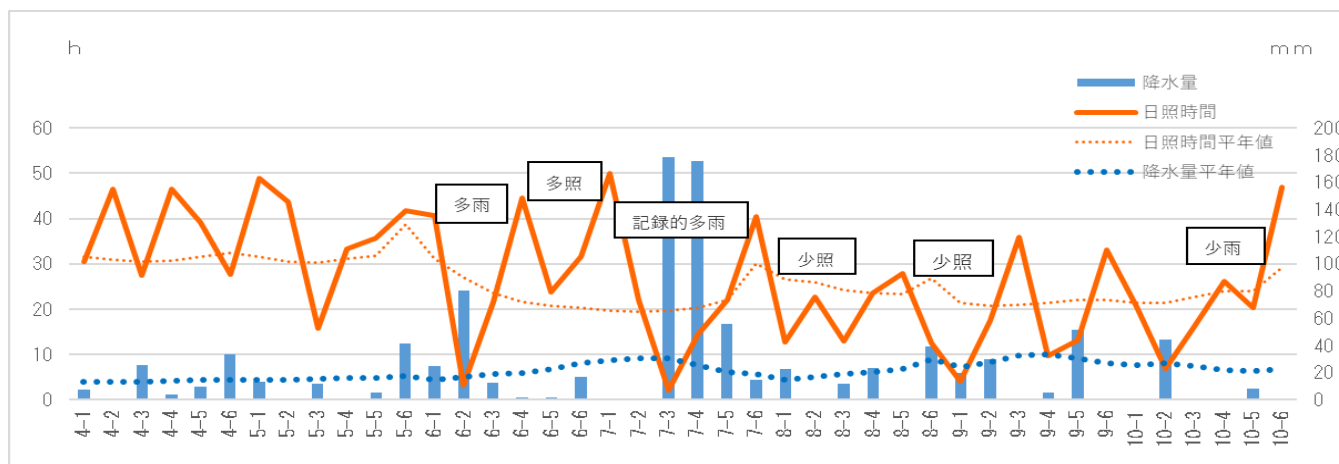
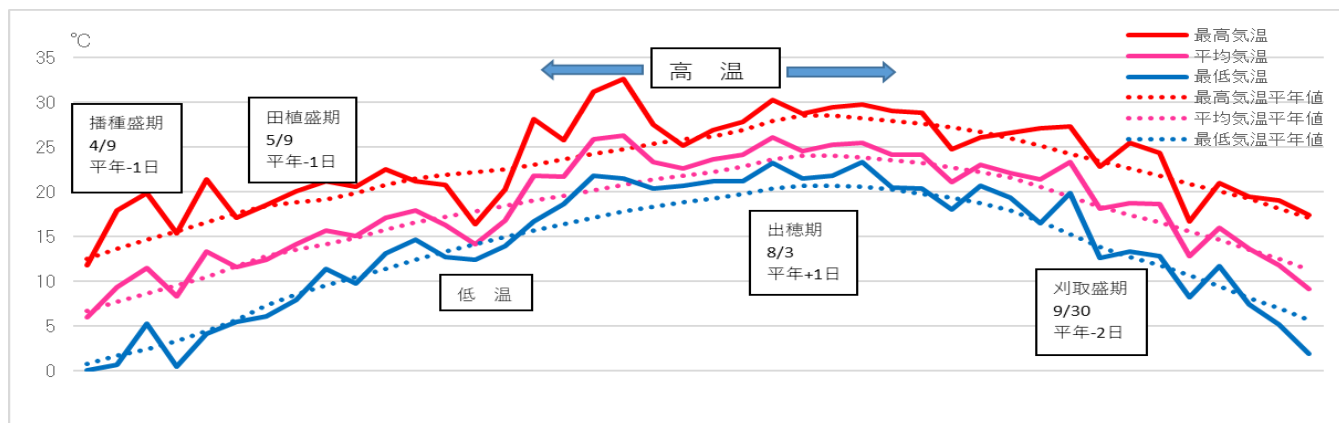


図1 稲作期間中の半月別気象経過（鹿島台アメダス）

表1 4月から10月の気象（平年との比較，鹿島台アメダス）

月	気温平年差 (°C)			降水・日照平年比 (%)	
	平均	最高	最低	降水量	日照時間
4月	0.9	2.2	-0.3	95	115
5月	0.8	0.9	0.5	75	116
6月	0.8	0.9	0.8	116	113
7月	2.2	2.2	2.2	273	117
8月	0.5	0.4	0.6	75	75
9月	1.1	1.1	1.2	64	87
10月	-0.5	0.1	-1.0	38	97

### 気象の特徴

- 4月の高温多照
- 6月第1～第3半旬の低温，第2半旬の寡照
- 7月第3半旬の記録的多雨
- 8月第6半旬の低温，8月第6半旬～9月第1半旬の寡照

## 2. 生育の経過

### 1) 育苗

表2 播種状況

		始期 (5%終了)	盛期 (50%終了)	終期 (95%終了)
管内	本年	3/27	4/9	4/17
	前年	3/31	4/10	4/18
	平年	4/1	4/11	4/21
県全体	本年	4/2	4/11	4/22
	前年	4/2	4/10	4/22
	平年	4/2	4/11	4/21

※管内および県全体の平年値は過去5か年の平均値。

管内の播種盛期は4月9日と平年より2日早くなりました。

育苗は概ね順調でしたが、一部で高温障害の発生が見られ、播き直したものもありました。

ばか苗病の発生はやや少なくなりました。

### 2) 田植

表3 田植状況

		始期 (5%終了)	盛期 (50%終了)	終期 (95%終了)
管内	本年	5/3	5/9	5/20
	前年	5/4	5/11	5/19
	平年	5/3	5/10	5/19
県全体	本年	5/3	5/10	5/22
	前年	5/4	5/11	5/21
	平年	5/3	5/11	5/21

※管内および県全体の平年値は過去5か年の平均値。

管内の田植盛期は5月9日、終期は5月20日で平年に比較し盛期は1日早く、終期は1日遅くなりました。

5月第1～3半旬は強風の日が多く、葉先枯れが発生したほ場もありましたが、第3半旬を除き気温が高めで推移したこともあり、生育は順調に進みました。

### 3) 本田での生育状況（管内調査ほ）

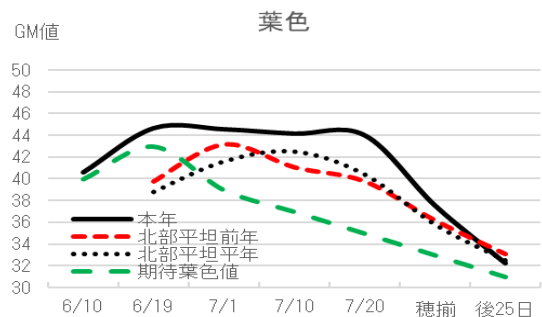
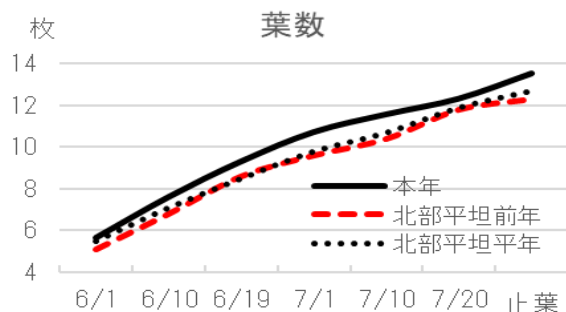
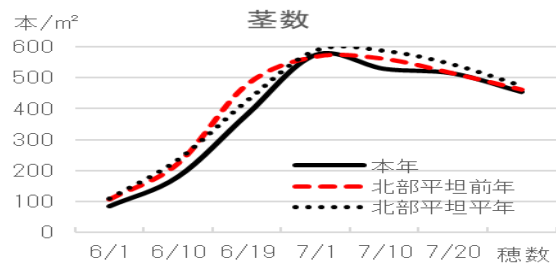
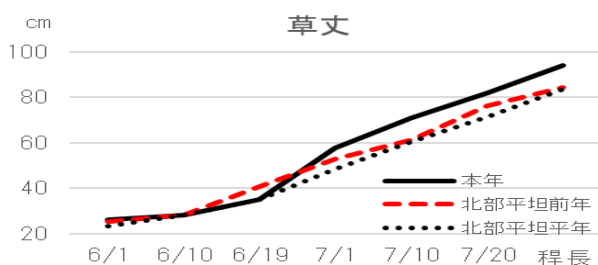


図2 管内「ひとめぼれ」調査ほ(2か所平均)における生育の推移

注：北部平坦前年は県内生育調査ほ14筆、北部平坦平年は県内生育調査ほ12筆の平均

- ・草丈：7月以降は、稈長を含め、北部平坦調査ほの前年および平年を上回りました。
- ・茎数：6月は北部平坦調査ほの前年および平年を下回りました。7月以降の調査結果も前年および平年を下回りましたが、差は縮まり、穂数はほぼ前年と同程度になりました。
- ・葉数：生育期間を通して、北部平坦調査ほの前年および平年を上回りました。ほとんどの株の止葉は13枚目でしたが、14枚目が出葉した株もありました。
- ・葉色：全般に北部平坦調査ほの前年及び平年より濃く推移しましたが、出穂後25日調査時にはほぼ同じとなり、期待葉色値を1ポイント程度上回りました。

○管内では、7月15～16日の大雨により、水稻でも浸冠水の被害が発生し、生育の停滞、白葉枯病の発生、株の枯死等が見られました。

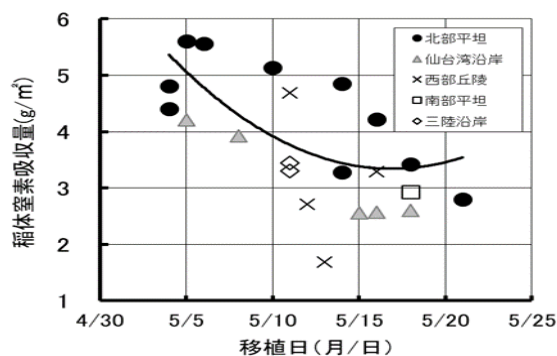
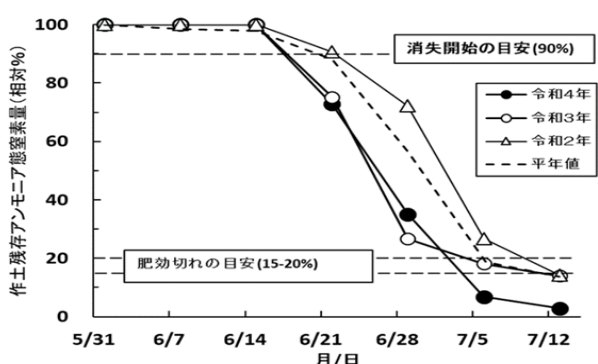


図3 作土残存アンモニア態窒素量の消失経過 (古川農試)

図4 移植時期別の稲体窒素吸収量の比較 (県内ひとめ生育調査ほ)

- ・基肥窒素による作土残存アンモニア態窒素量：

前年とほぼ同様に、6月中旬から急激な減少が見られました。窒素消失開始時期は6月18日頃で前年とほぼ同じでしたが、平年より4日程度早くなりました。

- ・稲体窒素吸収量：

北部平坦のひとめぼれでは、前年と同様、他の地域に比較し窒素吸収量が多い傾向でした。

#### 4) 出穂期

表4 出穂状況

		始期	出穂期	穂揃期
		(5%出穂)	(50%出穂)	(95%出穂)
管内	本年	7/29	8/3	8/13
	前年	7/24	7/31	8/8
	平年	7/28	8/2	8/10
県全体	本年	7/29	8/3	8/12
	前年	7/26	7/30	8/7
	平年	7/29	8/1	8/9

表5 出穂期前後の気象 (鹿島台アメダス)

区分	管内平均 出穂期	出穂期前25日間				出穂期後20日間			
		気温 (°C)			平均日照 時間	気温 (°C)			平均日照 時間
		最高	最低	日較差		最高	最低	日較差	
本年値	8月3日	28.3	21.7	6.6	4.2	28.8	20.7	8.1	4.0
前年値	7月31日	28.4	21.6	6.8	5.4	27.8	21.1	6.7	4.2
平年値	8月2日	26.4	19.4	7.0	5.3	28.0	20.3	7.7	5.0
前年比・差	+3日	-0.1	0.1	-0.2	78%	1.0	-0.4	1.4	95%
平年差・比	+1日	1.9	2.3	-0.4	79%	0.8	0.4	0.4	80%

※管内および県全体の平年値は過去5か年の平均値。

注)平年値:出穂期は過去5年間の平均値。気象はアメダス鹿島台の平年値。

- ・管内の平均出穂期は8月3日で前年より3日、平年より1日遅くなりました。穂揃期は8月13日で前年より5日、平年より3日、それぞれ遅くなりました。
- ・出穂期前25日間の気象は、最高気温、最低気温は前年とほぼ同じで、平年より高くなりました。しかし、日照時間は前年及び平年の80%程度にとどまりました。

- ・ 出穂期後 20 日間の気象は、最高気温は前年及び平年を上回りましたが、最低気温は前年を下回りました。日照時間は前年比では 95%でしたが、平年比は 80%にとどまりました。
- ・ 出穂期を挟んだ 45 日間の日照時間は、平年の 80%前後と少照傾向でした。

### 5) 登熟期から刈取期

古川農試作況試験ほにおける出穂後 25 日の沈下粒数歩合は、田植日別では、5 月 1 日植えのひとめぼれと 5 月 10 日植えのササニシキが平年より低くなりましたが、他は平年を上回りました。

品種別では、つや姫が平年の 90%とやや低かったものの、その他の品種は平年比 97~104%となりました。8 月第 3 半旬の低温寡照が影響した前年は、沈下粒歩合は平年の 85%程度に留まりましたが、今年度は比較的高温が続いたこともあり、極端な影響はなかったものと考えられます。

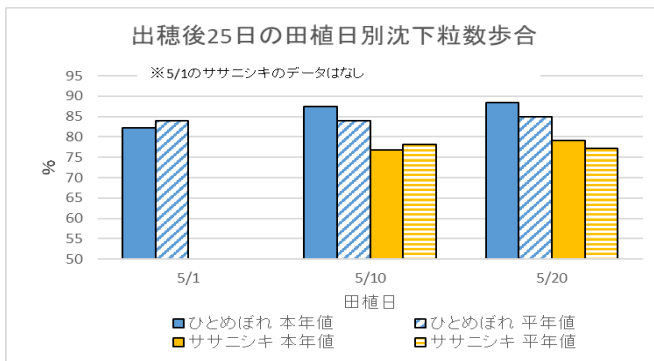


図 5 沈下粒数歩合の推移 (5/10 植作況ほ、古川農試)

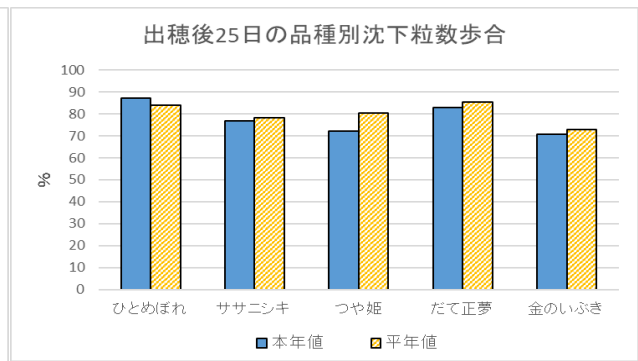


図 6 出穂後 25 日の品種別沈下粒数歩合 (5/10 植、古川農試)

表 6 各調査ほの稈長および節間長

地区名	品 種	稈長	節間長(cm)				
			第1	第2	第3	第4	第5
涌谷 (小塚)	ひとめぼれ	91.6	37.5	20.4	17.5	11.3	4.9
田尻 (桜田高野)	ひとめぼれ	95.6	36.3	22.8	18.4	13.8	4.3
鹿島台 (広長)	ササニシキ	83.6	36.3	20.5	12.5	10.0	4.3
鹿島台 (木間塚)	だて正夢	99.6	40.5	25.2	18.8	10.7	4.4
南郷 (和多田沼)	金のいぶき	93	39.0	21.4	14.7	11.2	6.7
小牛田 (荻埜)	ゆみあずき(湛水点播(鉄))	89.4	37.7	24.1	15.7	9.0	2.9

稈長はササニシキ、直播を除き 90cm 以上とやや長くなりました。

下位節間が長いほ場ほど倒伏度合が大きい傾向が見られました。

※参考：コシヒカリの幼穂形成期の節稈長が 3.5cm 以下であれば、出穂前 18 日に窒素成分で 1kg/10a 施用でき、出穂後 30 日の倒伏程度を 3.5 未満に抑えることができる。(新潟県ホームページより)

表 7 刈取状況

		始期 (5%終了)	盛期 (50%終了)	終期 (95%終了)
管内	本年	9/21	9/30	10/15
	前年	9/17	9/26	10/10
	平年	9/23	10/2	10/15
県全体	本年	9/18	10/1	10/15
	前年	9/17	9/28	10/12
	平年	9/21	10/2	10/14

※管内および県全体の平年値は過去5か年の平均値。

管内の刈取盛期は 9 月 30 日で前年より 4 日遅く、平年より 2 日早くなりました。

終期は 10 月 15 日で前年より 5 日遅く、平年と同じになりました。

### 3. 収量および品質

表8 管内調査ほの生育ステージと収量構成要素

	調査地点	品種	区分	田植日	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	幼穂形成期	出穂期	成熟期	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂粒数 (粒/本)	籾数 (百粒/m <sup>2</sup> )	登熟歩合	千粒重	精玄米重
												(%)	(g)	(kg/10a)
移植	涌谷 (小塚)	ひとめぼれ	本年値	5月6日	19.0	7月8日	8月2日	9月13日	505	75.0	379	62.4	23.4	554
			前年比・差	2日早い	102%	3日遅い	4日遅い	5日遅い	117%	104%	122%	69%	104%	85%
			県平年比・差	7日早い	-	-	-	-	110%	114%	126%	77%	104%	103%
	田尻 (桜田高野)	ひとめぼれ	本年値	5月5日	15.9	7月6日	8月1日	9月12日	440	66.9	295	82.0	22.7	548
			前年比・差	2日早い	99%	2日遅い	4日遅い	5日遅い	91%	98%	90%	106%	106%	101%
			平年比・差	6日早い	98%	3日早い	1日早い	5日早い	98%	87%	85%	108%	103%	97%
	鹿島台 (広長)	ササニシキ	本年値	5月12日	15.4	7月11日	8月8日	9月21日	428	82.2	352	68.2	21.9	525
			前年比・差	2日遅い	-	-	-	-	90%	114%	103%	87%	100%	92%
			本年値	5月15日	16.1	7月15日	8月8日	9月24日	359	94.0	339	77.0	20.3	532
	鹿島台 (木間塚)	だて正夢	前年比・差	2日早い	98%	1日遅い	4日遅い	5日遅い	92%	123%	114%	94%	99%	107%
平年比・差			平年と同じ	83%	2日遅い	2日遅い	3日遅い	88%	112%	99%	108%	102%	110%	
本年値			5月6日	16.1	7月15日	8月9日	9月28日	434	89.7	389	61.7	23.5	560	
南郷 (和多田沼)	金のいぶき	前年比・差	4日遅い	98%	5日遅い	7日遅い	9日遅い	96%	122%	117%	106%	103%	126%	
		過去平年比・差	2日遅い	99%	3日遅い	3日遅い	3日遅い	101%	116%	118%	92%	107%	114%	
		本年値	5月3日	17.4	7月18日	8月9日	10月10日	527	87.5	472	67.0	22.8	724	
直播	小牛田 (萩坪)	ゆみあずさ (鉄コーティング 湧水灌漑)	前年比・差	2日早い	104%	7日遅い	3日遅い	12日遅い	128%	115%	150%	78%	97%	115%

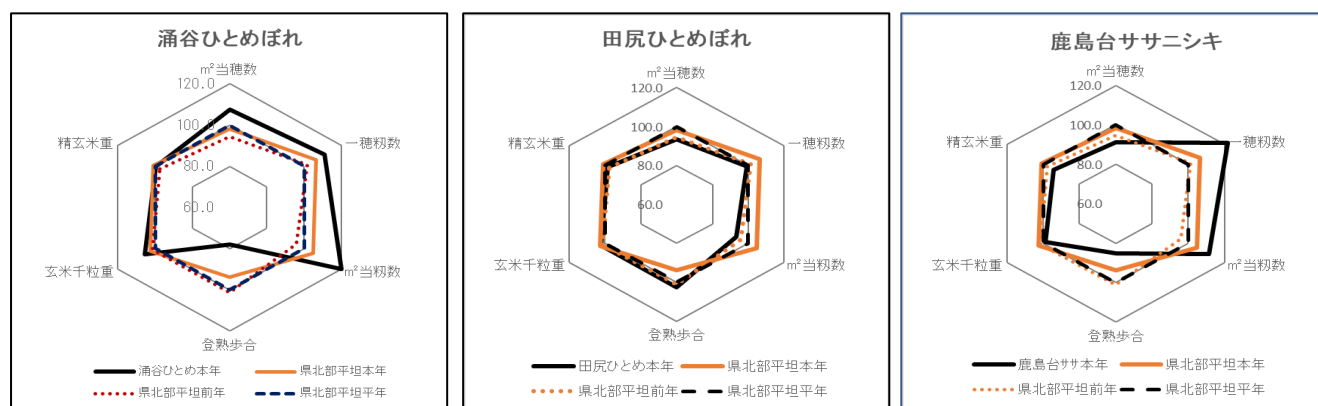


図7 ひとめぼれ及びササニシキ調査の結果と県北部平坦との比較

#### 1) 作況と収量構成要素 (12/9 発表)

〔宮城〕10a 当たり収量 511kg(篩目 1.9mm), 作況指数 100「平年並」(東北農政局)

県北部作況指数 99

全穂数は平年を確保したものの、大雨や出穂期以降の日照不足、倒伏等により登熟(開花、受精から成熟期までの籾の肥大、充実)が平年を下回る地域があったことから、県北部の作況は宮城県全体より低くなりました。

なお、9月25日現在の作況発表時における県北部の籾数は、一穂あたりは「多い」、全籾数は「平年並」となっており、管内の調査ほも、籾数は多く、登熟歩合はやや低い傾向が見られました。

2) 玄米品質

表9 管内調査ほの玄米品質調査結果

	調査地点	品種	区分	整粒比 (%)	胴割粒比 (%)	白未熟粒比 (%)	青未熟粒比 (%)	その他未熟粒比(充実不足)(%)	着色粒比 (%)	死米粒比 (%)	被害粒比 (%)	玄米の粒形			タンパク含有率(%)
												長さ(mm)	幅(mm)	厚み(mm)	
移植	涌谷(小塚)	ひとめぼれ	本年値	78.1	0.4	1.7	5.3	13.5	0.3	0.0	0.4	5.32	2.76	2.04	6.5
			前年値	69.7	4.7	5.7	1.3	16.8	0.0	0.9	0.8	5.29	2.73	2.03	6.6
			前年比・差	8.4	-4.3	-4.0	4.0	-3.3	0.3	-0.9	-0.4	101%	101%	100%	-0.1
	田尻(桜田高野)	ひとめぼれ	本年値	61.7	9.5	4.6	1.4	21.2	0.3	0.1	1.0	5.36	2.76	2.00	5.7
			前年値	64.6	5.4	6.0	0.7	21.6	0.0	1.0	0.7	5.16	2.71	2.02	5.9
			前年値	76.0	1.6	7.7	0.6	10.0	0.0	1.9	2.2	5.13	2.79	1.99	6.5
			前年比・差	-2.9	4.1	-1.4	0.7	-0.4	0.3	-0.9	0.3	104%	102%	99%	-0.2
	鹿島台(広長)	ササニシキ	本年値	65.8	2.3	4.1	4.0	22.7	0.3	0.2	0.4	5.19	2.73	2.01	7.3
			県前年値	64.5	6.7	10.0	1.9	14.6	0.0	1.7	0.6	5.20	2.72	2.04	6.3
			前年比・差	1.3	-4.4	-5.9	2.1	8.1	0.3	-1.5	-0.2	100%	100%	99%	1.0
	鹿島台(木間塚)	だて正夢	本年値	54.1	0.1	2.7	1.6	37.8	1.1	0.1	2.6	5.21	2.64	1.95	7.0
			前年値	46.8	0.1	1.2	7.1	40.4	0.0	0.0	4.5	5.34	2.63	1.94	6.8
前年値			50.5	0.5	18.0	1.8	20.0	0.0	0.3	9.7	5.17	2.64	1.96	6.3	
前年比・差			7.3	0.0	1.5	-5.5	-2.6	1.1	0.1	-1.9	98%	100%	101%	0.2	
直播	小牛田(荻埜)	ゆみあずき(渇水点播(鉄))	本年値	79.7	0.2	1.8	0.6	15.6	1.5	0.0	0.6	5.38	2.74	2.02	6.2
			前年値	63.7	0.2	1.3	0.8	24.3	0.0	0.9	0.6	5.32	2.73	2.00	5.7
			前年比・差	16.0	0.0	0.5	-0.2	-8.7	1.5	-0.9	0.0	101%	100%	101%	0.5

※平年値は過去5年間の平均値。

※ササニシキの県前年値は、県内調査ほ6ほ場の平均値。

※金のいぶきについては、巨大胚および低アミロース品種であるため、品質判定機による品質評価ができないためデータなし。

※直播については、栽培初年目の品種のため、本年値のみ記載。

- ・ひとめぼれ、ササニシキでは、前年及び平年と比較し青未熟粒比がやや高い傾向がありました。その他の未熟粒の発生割合は、出穂後の低温の影響を受けた前年よりは低くなりましたが、平年より高くなりました。7月の大雨や、登熟期の日照不足が影響したものと考えられます。
- ・玄米の粒形は、田尻ひとめぼれの長さを除き、ほぼ前年及び平年並でした。

表10 管内調査ほの粒厚分布

地区名	品種	区分	粒数比(%)							
			1.6>	1.6=<	1.7=<	1.8=<	1.9=<	2.0=<	2.1=<	2.2=<
涌谷(小塚)	ひとめぼれ	本年	0.4	0.5	1.2	2.2	9.2	44.7	35.3	6.6
		前年	1.6	1.0	2.2	2.8	10.3	34.3	38.7	9.1
田尻(桜田高野)	ひとめぼれ	本年	0.7	1.2	2.8	5.1	16.4	43.5	26.4	3.9
		前年	1.6	1.0	1.9	4.1	12.1	38.5	33.3	7.4
鹿島台(広長)	ササニシキ	本年	3.5	1.8	3.2	4.5	12.8	41.7	28.6	4.1
		前年	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿島台(木間塚)	だて正夢	本年	1.8	1.5	3.6	9.6	28.7	46.8	7.2	0.7
		前年	2.8	1.8	5.3	9.0	31.5	41.6	7.6	0.5
南郷(和多田沼)	金のいぶき	本年	1.0	1.0	0.9	1.7	5.9	20.3	32.6	36.6
		前年	-	-	5.7	4.0	10.9	15.5	23.1	27.4
小牛田(荻埜)	ゆみあずき(渇水点播(鉄))	本年	3.0	2.9	3.8	5.5	14.5	38.8	27.1	4.2
		前年	1.2	0.8	2.0	3.2	11.1	34.3	37.9	9.5

- ・金のいぶき調査ほでは2.2mm以上、その他の調査ほでは2.1mm以上の粒数がもっとも多くなりました。
- ・前年との比較では、ひとめぼれ調査ほ、直播調査ほは小さい粒の割合が多く、だて正夢および金のいぶき調査ほは大きい粒の割合が多くなりました。

### 3) 農産物検査結果

○JA 新みやぎみどりの地区管内の1等米比率：97.0%（12/5 現在，うるち米，倉庫出荷分）

主な落等要因：充実度不足 74.6%，部分着色（カメムシ）10.6%

○宮城県の1等米比率：96.2% 10/31 現在，農林水産省）

主な落等要因：①形質 61.2% ②着色粒 25.7% （1等以下に対する割合）

○東北地域の1等米比率：93.9%（10/31 現在，農林水産省）

・1等米比率は，東北地域では前年とほぼ同じですが，みどりの地区及び宮城県は前年を上回りました。

## 4. 主な病害虫の発生状況

1) いもち病 【発生量 葉いもち：平年並 穂いもち：やや少ない】

・葉いもち：県病害虫防除所発表の情報では，県内の初発は6月23日と推定され，平年より10日早く，全般発生期は平年並の7月第3半旬となっています。8月上旬の防除所の巡回調査では，発生地点率は平年を若干上回ったものの，発生株率は0.4%と平年（0.8%）を下回りました。

アメダス鹿島台地点のデータでは，7月15日，23日に感染好適条件，8月15，16日に準感染好適条件が出現しました。比較的感染好適条件の発現は少ない年でしたが，防除を行っていないほ場やいもち病に弱い品種（金のいぶき，萌えみのり等）では病斑が確認されています。

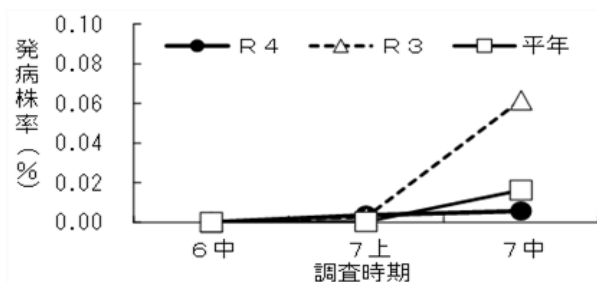


図8 葉いもち広域調査 発生株率(県病害虫防除所調査)

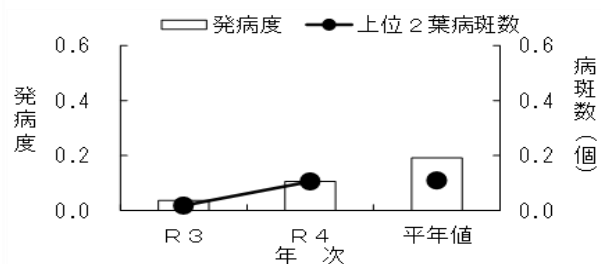


図9 葉いもち25株調査発生度及び上位2葉病斑数(8月上旬)(県病害虫防除所調査)

・穂いもち：全般発生期は8月第3半旬と，平年よりやや早くなりました。上位葉に病斑が発生したほ場では，穂いもちや籾いもちの発生が見られましたが，平年より上位葉の病斑数が少なかったことにより，発生量はやや少なくなりました。

2) 紋枯病 【発生量：やや少ない】

県病害虫防除所の定点観測ほにおける初発日は，平年より14日遅い7月20日でした。発生地点率は平年より多くなりましたが，8月第6半旬の低温や降雨により進展は緩慢となり，発生量はやや少なくなりました。

ただし，前年に発生したほ場や生育量の多いほ場では上位葉鞘まで病斑が見られ，減収につながったと思われる稲もありました。

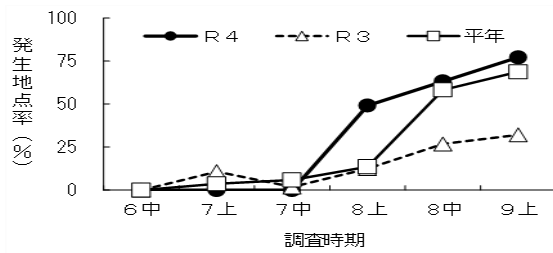


図10 紋枯病発生地点率(県病害虫防除所調査)

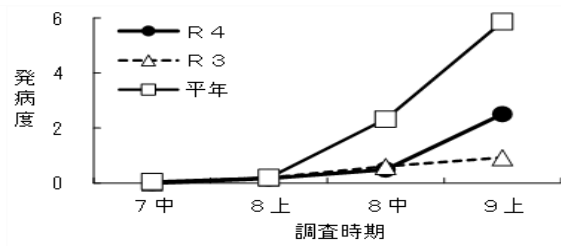


図11 紋枯病発病率(県病害虫防除所調査)

### 3) 斑点米カメムシ類 (主要種: アカスジカスミカメ) 【発生量 平年並】

県病害虫防除による8月中旬のアカスジカスミカメの発生地点率は33.3%で、平年(36.1%)並でしたが、すくい取り頭数は1.4頭と、平年(3.8頭)よりやや少なくなりました。斑点米の発生地点率は38.6%と、平年(63.4%)より低くなりました。

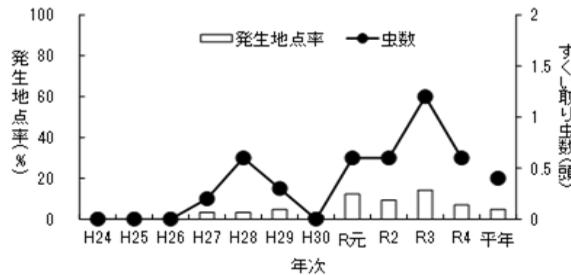


図12 水田内におけるクモヘリカメムシの発生地点率及びすくい取り虫数の年次推移(8月中旬)

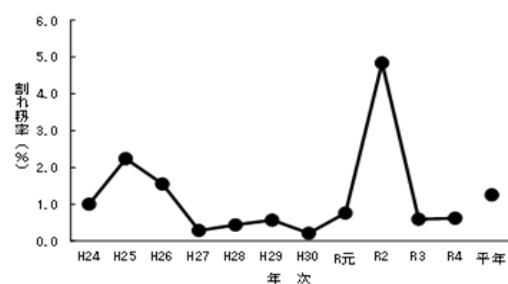


図13 割れ粗率の年次推移 (図12, 13とも病害虫防除所調査)

8月の降水量は平年並でしたが、雨の日が多く、カメムシの本田への侵入が抑制されたこと、割れ粗が少なかったこと、本田のイヌホタルイの残草が少なかったことなどが、斑点米の発生が少なかった要因と考えられます。

今年度の管内の出穂期は8月3日で無人ヘリによる防除は8月4~9日にかけて実施され、農産物検査における斑点米の発生は、例年よりかなり少なくなりました。

### 4) ばか苗病 【発生量: 少ない】

6月中旬の県病害虫防除所の調査では、発病株率は5.3%と平年(11.8%)より低くなりました。

### 5) 稲こうじ病 【発生量: やや少ない】

9月上旬の県病害虫防除所の巡回調査では、発病地点率は平年よりやや高かったが、発病率は0.01%と、平年(0.14%)を下回りました。

7月の降水量が平年を大きく上回り、日照時間も平年より少なくなったことで発病が助長されましたが、平均気温が平年並だったため、病勢の進展は緩慢となったことが発生量が少なくなった要因として考えられます。

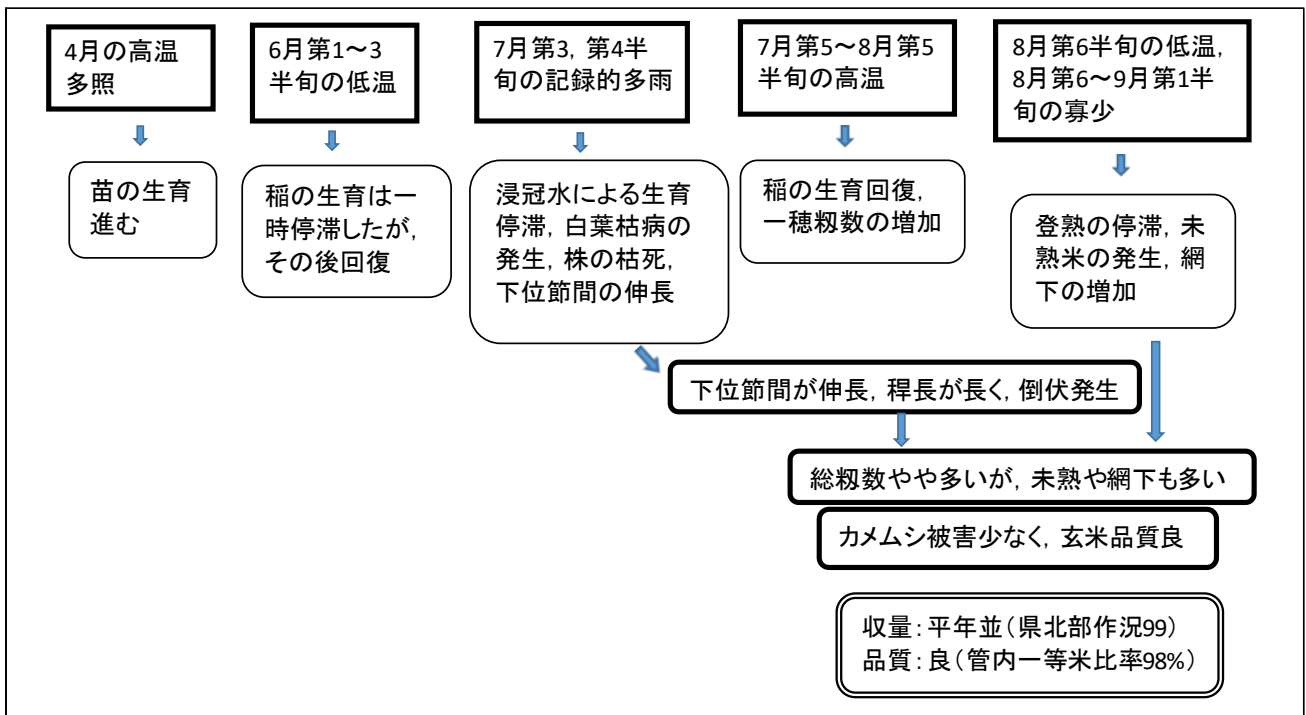


## 6) 白葉枯病【発生量：やや多い】

大雨により感染し、発病が助長される病気です。県内では10年以上発生が認められませんが、7月の大雨で長期間冠水したほ場で発生が見られました。被害の大きかったほ場では、出穂前に枯死した稲もありました。

## 5. 令和4年産の課題と令和5年産に向けた対策

### 令和4年産の特徴と課題



### 令和5年産に向けた対策

#### 【基本技術の励行】

#### 1) 土づくり・施肥

近年乾田化が進み、地力が低下傾向にあります。気象変動に対応できるよう地力維持のための土づくりを実施しましょう。また、基肥一発肥料を過信せず、生育量や葉色に応じて追肥を実施するように心がけましょう。

- ① 堆肥, 稲わらの施用…地力・保肥力の向上, 土壌物理性の改善, ケイ酸・カリ成分の還元
- ② 土づくり肥料の施用…**ケイ酸質資材**: 稲体健全化, 耐倒伏性強化, 登熟向上, 病虫害軽減  
**リン酸質資材**: 低温時の活着や分けつの促進, **含鉄資材**: 還元障害対策, 秋落ち対策

穂揃期の栄養状態と白身未熟粒の発生には密接な関係がありますので、この時期の葉色を維持するような施肥を心がけましょう。

## 2) 移植時期

移植時期及び出穂期と玄米品質には密接な関係があり、ひとめぼれでは移植時期が遅いほど整粒歩合が高まるとされています。

- ① 晩期栽培（田植えを5月20～25日に実施し、出穂期を8月中旬とさせる栽培管理）実施
- ② 直播栽培，晩生品種の導入

また除草剤散布後の補植作業は、薬剤の処理層を壊し、雑草発生に繋がるので避けて下さい。

## 3) 水管理

近年中干しの開始時期が遅くなっている傾向がありますが、中干しは有効茎数を確保したら速やかに行いましょう。令和4年産では、下位節間が伸び、早期に倒伏したほ場が多く見られましたが、中干しの実施は倒伏軽減にもつながります。

中干しが難しい水田や根腐れしやすいほ場では、飽水管理により土壌を酸化的に保つことで、根の活力を維持し、登熟の向上を図りましょう。

高温年では早期落水は品質低下の一因となります。落水は出穂後30日頃を目安としましょう。

## 4) いもち病防除

本年も6月下旬までほ場に残苗が見られました。残苗は発病しやすく、伝染源になりやすいので、補植が終わったら直ちに埋没するなどして処分しましょう。

いもち病防除は予防防除が基本です。箱施用剤を施用しない場合は、感染好適日の出現に注意し、ほ場をこまめに見回り、葉いもちの病斑を見つけたら速やかに防除を行いましょう。

穂いもちについては、籾・枝梗いもちは、出穂直後から感染し、出穂後の積算気温（出穂期以降の日平均気温を積算した気温）が50～60℃の時（出穂期後2～3日）に最も感染しやすく、出穂後の積算気温が200～250℃（出穂期後8～10日）になるとほとんど感染しなくなります。

また、穂首いもちは、出穂後の積算気温が130℃（出穂期後6日頃）の時に最も感染しやすくなり、300℃以降（出穂期後12日頃～）になると感染しなくなることが分かっています。上位葉の病斑数が多い場合は、穂いもちに感染しやすい時期に適期に防除することが重要です。

令和4年産のように、大雨で浸冠水したほほ場では発生リスクが高まります。そのような場合は、稲の状況や天候を考慮し、防除を検討してください。

## 5) 斑点米カメムシ類防除

アカスジカスミカメは、畦畔や休耕地等のイネ科植物の穂に産卵して越冬（越冬世代）し、第1世代（8月上旬頃に加害）、第2世代（8月下旬頃に加害）と世代交代して増殖していきます。

密度低下の一つの方法として、越冬世代の餌となるイネ科植物がある場所を春に草刈り、除草剤散布、畦塗りすることが有効と考えられます。

加えて、従来の第1世代幼虫発生盛期である7月中～下旬の地域一斉草刈りと、基本の防除体系（1回目：穂揃期、2回目：穂揃期の7～10日後）の実施で対応しましょう。近年、出穂期が早まる傾向がありますので、出穂期を早めに予測し、適期に防除できるよう努めましょう。